

## 地域赤十字奉仕団員研修会を開催

毎年秋に実施している地域赤十字奉仕団員研修会が始まりました。

今年度は、10月4日(火)から12月1日(木)まで、県内14会場(15奉仕団)で開催します。新型コロナウイルス感染症の感染者数が少し落ち着いたタイミングでもあり、今年は過去最高の参加申込みがありました。

今回の研修では、赤十字についての講義の後、「災害発生後に直面する地域の問題」をテーマに、過去の体験例を参考に各グループでディスカッションしました。

参加者からは、「ディスカッションでは、正解がないためややもやしてしまいましたが、一人で決断するのではなく、地域の状況や周りの人たちと協力して判断していきたい」「災害の知識を深め、自分たちができることを実践していきたい」と感想がありました。

～加東市赤十字奉仕団の研修の様子～



▲挨拶する友藤富士子兵庫県赤十字奉仕団委員長



▲講師から防災グッズについて説明を受ける奉仕団員

## 令和4年度赤十字ポスターコンクール～たくさんのご応募ありがとうございました～

兵庫県支部では毎年、兵庫県内の小・中・高・特別支援学校を対象に「赤十字ポスターコンクール」を実施しています。今年度は「いのちを守る赤十字の活動」「つなげよう!青少年赤十字」をテーマとして作品を募集したところ、61校323作品の応募をいただきました。33作品が入賞しましたが、ここでは優秀賞・特別賞の5作品をご紹介します。

※兵庫県支部ホームページにて、入賞作品および展示予定などをご覧いただけます。

### 最優秀賞



兵庫県立洲本実業高等学校 2年 柴田知歩

### 青少年赤十字創設100周年特別賞



神戸市立住吉中学校 2年 金村柚依

### 優秀賞



神戸市立小東山学校 6年 伊藤壮哉



姫路市立広畑中学校 2年 高室瑠奈



兵庫県立姫路工業高等学校 1年 田端ひまり

## 「NHK海外たすけあい」キャンペーン 12月1日～12月25日

日本赤十字社では12月1日から25日まで「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施します。これは、世界192の国と地域に広がる赤十字のネットワークを活かし、複雑化・長期化・大規模化する世界の人道危機に対して、人々の苦痛を軽減する取り組みを続ける赤十字の活動に充当するため、日赤がNHKと共同で毎年実施しているキャンペーンです。第40回目となる今回は、「誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。」をテーマとし、「救うことを託される」存在として世界各地の人道危機から誰も取り残さないよう、公平な支援を届け続ける赤十字の姿を伝えます。皆さまの温かいご協力、よろしくお願いたします!



誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。



### オンラインで学べる赤十字講習会のご案内

講習内容	開催日	時間
みんなで学ぼう応急手当	【救急法】きずの手当	12月7日(水) 10:30～11:30
あなたは大切な人を救えますか?	【救急法】一次救命処置	12月7日(水) 14:00～15:00
あなたは大切な人を救えますか?	【救急法】一次救命処置	12月22日(木) 10:30～11:30
災害への備え(地震編)☆	【防災セミナー】	12月22日(木) 14:00～15:00
知っておきたい!急病・手当の基本☆	【救急法】急病の手当	1月11日(水) 10:30～11:30
こどもにAEDって使えるの?	【幼児安全法】乳幼児の一次救命処置	1月11日(水) 14:00～15:00
災害への備え(地震編)☆	【防災セミナー】	1月26日(木) 10:30～11:30
今、考えようよ自分の健康☆	【健康生活支援講習】健康な高齢者をめざして	1月26日(木) 14:00～15:00

☆印の講習は講義のみです。それ以外は実技を含みます。

### 対面式での講習については、支部ホームページをご確認ください

講習についての最新情報は、ホームページにて随時発信しています。ホームページにてご確認くださいかお電話にてお問い合わせください。

講習に関するお問い合わせ	Tel.078-241-1499
ホームページ(講習のページ)	<a href="https://www.hyogo.jrc.or.jp/lecture/">https://www.hyogo.jrc.or.jp/lecture/</a>

### 遺言・相続財産・お香典等のご協力について

「自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」といったご相談や、大切な方を亡くされたご遺族から、「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」というお申し出が増えています。日本赤十字社では、このような尊いご意思に応えるために、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っております。お問い合わせは☎0120-078-456(振興課)まで

※隔月(奇数月)に発行しています。

**日本赤十字社** 兵庫県支部  
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号 TEL.078-241-9889 FAX.078-241-6990

赤十字 兵庫 検索 <https://www.hyogo.jrc.or.jp/>

ひょうごの赤十字11月号[2022年11月1日発行]

Japanese Red Cross Society Hyogo Chapter

■ ホームページ  
<https://www.hyogo.jrc.or.jp/>  
■ インスタグラム  
[https://www.instagram.com/nisseki\\_hyogo/](https://www.instagram.com/nisseki_hyogo/)  
■ Facebook  
<https://www.facebook.com/nisseki.hyogo/>

Instagram facebook

QRコード: NISSEKI.HYOGO

# ひょうごの赤十字+

2022  
11

いのちと健康を守る活動にご協力感謝いたします。



合同救護訓練において、海上保安庁職員と協力して資材を巡視船に積み込む赤十字職員

- 新型コロナウイルス感染症に対応する看護師の広域派遣も実施
- 第八管区海上保安本部との合同救護訓練/災害拠点病院訓練を実施
- ぼうさいこくたい2022に参加しました
- 地域赤十字奉仕団員研修会を開催
- 令和4年度赤十字ポスターコンクール審査結果
- 「NHK海外たすけあい」キャンペーンのお知らせ





## 新型コロナウイルス感染症に対応する看護師の広域派遣を行いました

新型コロナウイルス感染症蔓延による医療体制逼迫により沖縄県では7月に医療非常事態宣言が発表されました。厚生労働省からの看護師派遣要請を受け、神戸赤十字病院では、昨年に引き続き、看護師2名を沖縄県へ派遣しました。

神戸赤十字病院 看護係長 三宅 翠

8月1日から15日まで、沖縄県で派遣業務を実施してきました。派遣先は「入院待機ステーション」という入院治療が必要な患者さんを一時的に受け入れる施設です。入院が必要な状態であっても、病床がないために入所される方が昼夜問わず来られている状況でした。本来は一時的に療養する場所ですが、入院先の調整がつかずに長期間療養される方、自宅や施設の介護者が感染しているために退所できない方も多く、沖縄県の感染拡大を実感しました。仮設の施設であり、病院とは違う限られた設備の中でできる看護は何なのか、戸惑うこともありましたが、沖縄県の看護師、ともに派遣された全国の看護師と協力し看護を実践することができました。新型コロナウイルスの感染拡大は災害であり、当院も多くの影響を受けています。その中で派遣要請に応じることができるのは災害救護という日本赤十字



▲取材を受ける三宅係長(左)

社の使命、病院の支援体制が整っているからだと思います。派遣業務で学んだことや感じたことを今後の看護に活かしていきたいと思います。地域の皆様には日頃からのサポート・応援に感謝申し上げます。

神戸赤十字病院 看護係長 西川 久美

私は9月1日から15日まで、沖縄県那覇市にある入院待機ステーションに派遣されました。その入院待機ステーションは、医療機関の負担軽減・救急隊の現場待機時間を短縮し救急体制を護ることを目的とした施設で、急性期病棟や救急外来の役割から、施設療養者の一時的な隔離療養の場、自宅療養者の電話での夜間相談窓口など業務内容は多岐に渡っていました。療養されている患者さんは軽症～中等症でしたが、高齢の方が多く入所と退所の入れ替わりも激しかったため、目まぐるしい毎日でした。ステーションでは医師や看護師の他、介護士、理学療法士、県の職員や民間救急のドライバー、ケアマネージャーが従事されており、職種は違いますがそれぞれの役割を活かし協力し合いながら患者対応に尽力されていました。病院ではなく待機施設なので、限られた薬剤や酸素療法



の中での医療行為しかできないため、患者さんの悪化のサインを見逃さず早期発見・早期対応ができるよう意識しながら働きました。また、施設はベッド同士がパーテーションで区切られただけであり、テレビなどもないため、積極的に離床を促し会話をしたり、YouTubeで沖縄民謡をかけたりしながら、患者さんが退屈せず、また高齢の方の認知症が悪化しないよう心掛けて接するようになりました。



今回の派遣では、普段働いている病棟業務とは違った業務内容でしたが貴重な経験をすることができました。赤十字組織の一員として、災害救護や新型コロナウイルス感染症蔓延のような災害級の事態の際に力を発揮できるよう、今後も意識し日々の業務や救護訓練に取り組んでいきたいと思ひます。



## 第八管区海上保安本部との合同救護訓練を実施

9月27日(火)、「海上保安庁と日本赤十字社との業務協力に関する協定」に基づき、今後発生が予想される南海トラフ地震等の大規模災害時に備え、連携を強化するため、第八管区海上保安本部との合同救護訓練を実施し、管内から姫路赤十字病院、多可赤十字病院、神戸赤十字病院の救護班が参加しました。今回の訓練は、高知県沖を震源とする南海トラフ地震により兵庫県全域に甚大な被害が発生し、「巡視船みうら」に日赤救護班および国内型緊急対応ユニット(dERU)を搭載し、神戸港から淡路市津名港に向けて出港し現地に於て救護活動を行うという想定のもと、海上保安庁職員と連携して救護員が傷病者のトリアージ・搬送・処置を行いました。救護所では新型コロナウイルス感染症が疑われる傷病者に対してゾーニング対応も行いながら活動する様子も見受けられました。

訓練後の検証会では、令和元年度からはじまり第3回目となった今回の訓練では当初より格段に連携が進んだ活動ができているとの意見がある一方、情報伝達の難しさについての課題も挙げられました。そういった課題を踏まえ、次年度の訓練内容について早くも積極的な意見が交わされるなど、今後も連携強化をつなげていくことで合意しました。



## 災害拠点病院多数傷病者受入訓練を神戸赤十字病院において実施

10月15日(土)、神戸赤十字病院において災害拠点病院多数傷病者受入訓練を実施しました。淡路島北部を震源とする震度7の地震によりJR摩耶駅付近において列車が脱線し、多数傷病者が発生したという想定のもと、発災初期から迅速な医療活動を提供できる体制や対応マニュアルの検証を行いました。

訓練開始後、神戸赤十字病院と兵庫県災害医療センターはすぐに院内に合同災害対策本部を立ち上げて情報収集や他施設との連絡調整を行い、院内の各部署では次々と搬送されてくる負傷者の対応にあたりました。

訓練終了後、神戸赤十字病院の山下院長から「赤十字の理念、赤十字の使命として“災害対応”があり、すぐ期待されている活動でもあります。日頃から“災害”ということを意識しながら行動し、より良い対応ができるよう課題についてしっかりと検証していただきたい。」と総括がありました。



## ぼうさいこくたい2022に参加しました



10月22日(土)から23日(日)にかけて、「ぼうさいこくたい2022」が、人と防災未来センターを中心とするHAT神戸において「未来につなぐ災害の経験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～」をテーマとして開催されました。「ぼうさいこくたい」は、防災に関する活動を実践する多様な団体・機関が一同に会し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベントです。講義型セッションや来場者が楽しく学べる体験型ワークショップ、ブースでのプレゼンテーション、屋外展示等を実施し、令和4(2022)年度は第7回の開催となりました。内閣府主催のオープニングセッションには日本赤十字社の清家社長も出席し、「近年、災害の多発化や激甚化により私たちの取り組むべき課題も更に広がりを見せています。行政だけで災害に対応することは難しく、私たち一人ひとり、そして地域で力を合わせて対応することが重要となります。」と挨拶しました。

兵庫県支部では、屋外ではdERUテント内にて段ボールベッドや無線体験等の防災イベントを、国際健康開発センターでは青少年赤十字創設100周年記念救急法競技大会や50人一心心肺蘇生等を実施しました。



▲赤十字奉仕団の皆さんと清家社長(中央)、齋藤支部長(右から2番目)、大久保事務局長(一番右)

22日に行われた救急法競技大会では、胸骨圧迫部門、一次救命処置部門、本結び部門、応急手当部門の4つの部門にわかれ、速さや正確さを競いました。胸骨圧迫部門と応急手当部門で優勝した神戸市立神港橋高等学校チームのメンバーからは「4つの部門で賞をもらえてうれしいです。参加すると決まった時はあまり乗り気ではなかったけれど、赤十字の皆さんに丁寧に教えていただき、皆で一生懸命練習することによって優勝することができました。これからも続けていきたいです。」と感想がありました。



いのちと健康を守る赤十字活動は皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます  
〒 口座記号番号:01110-0-1136  
口座加入者名:日本赤十字社兵庫県支部  
※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。